

# ふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日

今 金 町

## 1 取組の目的

本事業は、食農教育に賛同いただいた地元生産者から提供していただいた食材を素材そのものの味を活かした献立内容で、町内の乳幼児・児童・生徒・教職員に提供することにより、郷土で収穫された作物である「ふるさとの恵み」と生産者や調理する人への感謝の気持ちである「ほほ笑み」の心を育む機会としている。

## 2 取組の内容

### (1) 提供施設名

町内にある乳幼児・児童・生徒が関わるすべての施設

乳幼児・・・種川へき地保育所・鈴金へき地保育所・認定こども園いまかね

小学校・・・種川小学校・今金小学校

中学校・・・今金中学校

### (2) 提供献立名

おにぎり、じゃがいもの塩煮、呉汁、牛乳

(呉汁とは大豆を水に浸しすりおろした物をみそ汁に入れた郷土料理である)



【今金小学校：食事の様子】

### (3) 生産者との関わり

稲作・畑作・各野菜でそれぞれ構成している団体の構成員により学校給食における地場産物の使用等を考える「今金食材サプライチーム」から、食材を提供していただいている。

「JA女性部」から、じゃがいもの塩煮の調理にご協力をいただいている。

「今金食材サプライチーム」「JA女性部」「生産者」の皆様から、食事の前に子どもたちへ『農作物に対する思い』『農作物を育てる苦労』『今金の農作物』についての講話をいただき、子どもたちと交流をしながら食事をする。



### (4) 調理に関して

各学校PTAに対して調理協力を募集し、じゃがいもの塩煮の調理のご協力をいただき、児童・生徒と一緒に交流して食事をいただく機会としている。



【種川小学校：調理してくれたお母さんと食事】



【今金中学校：生産者の講話】

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 児童・生徒等のアンケート結果から、今金産食材はおいしい、作物を育てる苦勞がわかった、今後は残さず食べたいという感想があり、故郷である今金を大切に作る心並びに食を大切にする心を子どもたちが育んでいることがわかった。
- ・ 生産者と子どもたちが交流しながら食事をする中で、生産者を身近に感じることができ学校給食で取り入れている地場産野菜に関心をもち、大切に食べるきっかけとなっている。
- ・ 農産物のみではなく、調理にも様々な協力があり、交流して食べる事で調理をしてくれた人への感謝の気持ちを学ぶことができる。



【種川へき地保育所：生産者と一緒の食事】



【鈴金へき地保育所：食事の様子】

#### (2) 課題

- ・ 生産者から食材の提供方法について、生産者に大きな負担とならない方法としていく必要がある。
- ・ 調理協力に関して調理場所により人数が不足していた場所もあったことから、周知時期を早くする等集まりやすい工夫をする必要がある。



【認定こども園いまかね：生産者のお話】



【JA女性部・PTA会員による調理協力の様子】